

研究主題 「未来を生きる力を育む 魅力ある学校づくり」

東児湯支会

1 主題設定の理由

新しい学習指導要領では「社会に開かれた教育課程」が重要視されており、学校・家庭・地域が一体となって子どもたちを育てていくことが求められている。子ども達は、学習を通して社会とのつながりを意識し、地域社会への関心を高めたり、社会との関係を学んだりするとともに、社会人として将来自立した生活を築くための基盤づくりをする必要がある。そのために、家庭や地域と学校が連携しながら学習を展開できるような協力体制が必要であり、地域社会とのつながりや地域人材の活用を踏まえて、各中学校での教育環境の整備を推進する上で、教頭がどのように関わればよいかを明らかにするために、本主題を設定した。

2 研究のねらい

各学校における地域社会とのつながりや地域人材などの教育環境を効果的に活用したり、整備したりするために、教頭としてどのように関わればよいかを究明する。

3 研究の概要と成果

(1) 研究内容

- ① 学校の特色を生かした取り組みについて
- ② 地域社会とのつながりと地域の教育力の向上について
- ③ 地域人材の活用のための組織体制づくりについて

(2) 各学校の実践事例の概要

【上新田中学校の取組】

「子ども達の教育のための、教育活動や環境整備への支援」

～学校支援ボランティアの募集と活用を通して～

○取組の概要

- ・ 子どもたちの教育のために、学校の要望に応じ、学校の教育活動や環境整備などを支援する

ボランティア活動を依頼した。

- ・ 年度初めに「学校支援ボランティア」について、保護者や地域の方から募集した。
- ・ 「学習支援」「環境整備支援」「学校行事支援」「地域学習支援」「読み聞かせ等」の活動に分け、学年や学級からの要望に応じ、活動に対する支援をお願いした。

○成果と課題

- ・ ボランティアの多様な知識や経験により、多様な体験の場が増え、子ども達の学習に対する興味関心が高まった。
- ・ 地域の大人達との交流によりコミュニケーション力や社会性を育てることにつながった。
- ・ 周りの人たちへの感謝の気持ちや、地域への愛着が深まった。

○教頭としての関わり

- ・ 様々な活動に参加・支援していただける方への連絡調整。
- ・ 活動学年学級と、ボランティアの方の「つなぎ」として、連絡調整にあたる。

【唐瀬原中学校の取組】

「総合的な学習の時間における『地域学校協働活動推進員』の効果的活用」

○取組の概要

本校では、総合的な学習の時間のテーマ（1年ふるさと学習や福祉体験学習等、2年職場体験や平和学習等、3年SDGs学習）に沿って、講話や体験学習の講師依頼の際、その斡旋、連絡調整等を町教育委員会に依頼している。「地域学校協働活動推進員」によるコーディネートが手厚く、毎回助けられている。

○成果と課題

- ・ 地域人材・資源の活用が積極的になり、地域とのつながりがさらに深まった。
- ・ 学習後の思考・判断・表現力をより高める手立てについて、生徒への学習支援をどう進めて

いくか。

○教頭としての関わり

教頭のかかわりとしては、まず、起案の事業の全体確認、見通しや準備・運営に対し、指導助言を行う。また、講師来校時の対応に携わっている。

【国光原中学校の取組】

「小中合同クリーン作戦の実施」

○取組の概要

- ・ 国光原中学校生徒会が中心となり、中学校区の小学生、中学生、地域の方々、保護者等と夏季休業中に自分の地区（地域）を清掃する活動に取り組んでいる。
- ・ 生徒会役員が小学校や地域の公民館等に向き、清掃場所・清掃用具等の確認を行ったりしている。
- ・ 生徒会役員がチラシを作成し公民館や小学校に配付する。

※ 本年度は新型コロナウイルス感染症のため当日は中止となったが、来年度も実施予定である。

○成果と課題

- ・ 計画及び打合せをしながら地域活動への参画意識を高められた。
- ・ 生徒会が主催することで、生徒の主体性を高められた。
- ・ 新型コロナウイルス感染症のため実際に活動までは行うことができていない。

○教頭としての関わり

- ・ 川南町役場等の外部機関や地域の方々との連絡調整を「地域学校協働推進委員」と連携しながら行う。

【都農中学校の取組】

「未来を生き抜く市民的資質の育成」

～ 地域企業との連携によるキャリア教育（つの未来学）の推進 ～

○取組の概要

都農町は町の魅力と課題を探るキャリア教育「つの未来学」を進めている。町キャリア教育支援センターから業務を委託された町内企業「イツノマ」が運営を担当し、学期ごとに全学年の総合的な学習の時間に各学年20時間程度

参加している。オンラインで県外や国外の講師らと協議を行ったり行政や町などに企画を提案したりするなど、活発に意見を出し合っている。

3年生・・・「世界のゼロカーボン学」世界のゼロカーボン先進国の取組を手がかりに、都農町でのゼロカーボンの取組を提案する探求型学習

2年生・・・「つの企画提案学」職場体験学習を手がかりに、働くことの意義を考え、体験で学んだことを企業に提案する探求型学習

1年生・・・「都農町まちづくり学」町の抱える課題を手がかりに町づくりの提案を行う探求型学習

○成果と課題

- ・ 町内企業が計画作成や運営を担うことにより、教員の業務内容も緩和された。
- ・ キャリア教育の充実に伴い、地域を愛し、地域に貢献したいと思う生徒の割合が増えた。
- ・ 学校が意図する学習のねらいと企業が求めるねらいの共有に時間がかかる。
- ・ 打合せ時間の確保やワークシート等の教材準備の遅れなど、学校と企業の授業の準備の意識にずれが生じる。

○教頭としての関わり

- ・ 上記の課題を解決していくために、都農町キャリア教育支援センターや教育委員会と連携して企業と学校が協働しやすい環境作りを推し進めるコーディネーターとなる。つの未来学を通して、「地域づくりに貢献したい、将来は町に戻りたい」と思える生徒を育みたいと考える。

4 今後の課題

本年度も新型コロナウイルスの感染状況により中止したケースもあったが、徐々に様々な取組が再開されてきている。教頭役目としては、外部と連絡調整が中心であるが、今後は多様な活動を展開できるように新しい人材や資源開拓も進めていく必要がある。そのためには地域学校協働本部との連携を進めていく必要がある。また、地域の力で学校の教育活動を活性化するだけでなく、学校の取組が地域にも何らかの形で貢献できるような工夫が必要である。